

一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院

臨床検査科 藤野博子

大原総合病院は、明治25年（1892年）大原一氏が福島町通十一丁目に開業。2代目院長となったのは野兎病を発見した大原八郎氏です。みなさんも野兎病菌について微生物学で習った記憶があるのではないかと思います。125年以上の歴史を誇り、先人が築き上げた数々の偉業とともに、福島市の中核医療機関として歩んでいる総合病院です。かねてより老朽化が著しかった建物は、東日本大震災により甚大な被害を受け、新しい病院の建設が計画されました。平成30年1月1日に新病院が開院。病床は353床で、地域医療支援病院としてER型総合救急センターと手術センター、HCU、屋上ヘリポートを完備して救急・手術・高度専門医療を連携して行える体制を整え、広域災害医療にも対応可能となりました。各診療科では専門医や指導医が在籍しており、多種多様な疾患を総合的に診療できる体制が整っています。地域周産期母子医療センターではレディースセンター、こどもセンター、NICUをワンフロアに配置することで、女性や子どもに優しい病院を目指しています。

臨床検査技師は、臨床検査センターとして大原総合病院、健診予防センター、大原医療センター、清水病院の各施設を横断して、検体及び生理検査業務を実施しています。臨床検査センターには27名（非常勤1名）が勤務し、24時間体制にて救急医療に関わる検査等に対応しています。当院の1階には救急外来・外傷センター、2階には各診療科外来を揃えています。患者動線を考慮し2階には採血・生理検査エリアを配置し、3階を検体検査エリアとして集約しました。1、2階から3階への検体搬送はダムウェーターを使用する事で時間の短縮につながりました。生理検査の業務としては、急性期医療を支えるため心電図検査、各種エコー検査や脳波検査、睡眠時無呼吸症候群検査、脊椎手術時の術中モニタリングなどを行い、検体検査では、生化学、血液、一般、免疫血清、細菌、輸血検査について迅速かつ正確に対応しています。また、4階には病理診断科があり7名が勤務しています。専従の病理医が常勤しており、組織検査、細胞診検査、病理解剖を実施しています。我々検査技師は、診断や治療に必要な情報を臨床医に提供できるよう日々努めています。

近年は積極的に新卒者を採用し、若者が活躍できる職場になっています。今後は人材育成・実習生の受入れにも力を入れ、大原総合病院の理念「人を愛し、病を究める」のもと常に探究心を持ち勉学に励み、地域の患者さんのためにより良い医療提供ができるように心がけていきたいと考えています。

大原記念財団ロゴマーク

シンボルカラー：緑（グリーン）
デザイン：大原のOをモチーフ
野兎病
吾妻小富士の雪ウサギ

